



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2021年11月11日

上場会社名 コムシード株式会社 上場取引所 名
 コード番号 3739 URL https://www.commseed.net/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 塚原 謙次
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長 (氏名) 大久保 泰夫 TEL 03-5289-3111
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の業績 (2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	965	—	37	—	35	—	29	—
2021年3月期第2四半期	671	19.0	△133	—	△140	—	△222	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	2.25	2.25
2021年3月期第2四半期	△19.16	—

- (注) 1. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。
2. 2021年3月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	1,161	794	68.0
2021年3月期	1,097	760	69.0

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 789百万円 2021年3月期 756百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,800	—	25	—	23	—	20	—	1.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

- (注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減率は記載しておりません。詳細は、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期2Q	13,117,116株	2021年3月期	13,112,716株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	148株	2021年3月期	148株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期2Q	13,113,313株	2021年3月期2Q	11,610,373株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 当社は、「財務諸表等規則」に基づいて財務諸表を作成しております。
3. 当社は、2021年2月25日に韓国において100%出資による子会社CommSeed Korea Co., Ltd.（12月決算法人）を設立しておりますが、年度に係る決算日が当社の決算日と異なり、現時点では重要性が乏しいため非連結子会社としております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における国内経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が一部地域に発令され全国的に経済活動が制限される中、ワクチン接種の促進など持ち直しの兆しがありつつも、個人消費は未だ低迷し、現在もなお先行き不透明な状況が続いております。

そのような中、世界的にコンタクトレステクノロジーが注目され、ソーシャルアプリの全世界での累計消費支出は前年同期比50%増の伸びを記録しております。(AppAnnie調査「ソーシャルメディアアプリの進化」2021.9)

当社では、当第2四半期累計期間において、引き続きモバイルゲームアプリ関連事業に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間の事業の概況としては、既存事業が堅調に推移し、また会計基準変更の影響もあり第2四半期累計期間の売上としては過去最高を記録いたしました。また、利益についても売上高の増加および徹底した原価の見直し、プラットフォーム手数料の改定などに伴い好調に推移しております。

以上の結果、売上高は965,823千円(前年同期は671,611千円)、営業利益37,899千円(前年同期は営業損失133,502千円)、経常利益35,425千円(前年同期は経常損失140,383千円)、四半期純利益29,475千円(前年同期は四半期純損失222,416千円)となりました。

(注) 第1四半期会計期間より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。そのため、当第2四半期累計期間における経営成績に関する説明は、売上高については前第2四半期累計期間と比較しての増減額及び前年同期比(%)を記載せずに説明しております。詳細は、「添付資料 2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」に記載のとおりであります。

なお、当社はモバイル事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしていませんが、事業におけるサービス分野別の主な取り組みは、以下のとおりであります。

- ① ソーシャルゲームについては、主力サービスのバーチャルホール「グリパチ」において、動画コンテンツと連動したイベントを実施するなど、毎月投入する新台に合わせたマーケティングを強化し、好調に推移いたしました。ユーザー数もオープンから9年を経てなお順調に伸び、累計550万人の会員数を抱えるメディアとなりました。その価値を活かし、広告収益を拡大しております。また、バーガーショップ経営ゲーム『I LOVE バーガー』が当第2四半期で4周年を迎え、各種イベントおよびキャンペーンを実施しております。
その他、当社が運営を担当し、グリー株式会社をパブリッシャーとするスマートフォンゲーム「ONE PUNCH MAN一撃マジファイト」に関する業務を進行しております。
- ② 従量制アプリについては、既存のアプリが好調に推移したほか、新規1アプリをリリースし、売上増に寄与しております。また、第3四半期以降にリリース予定のアプリに関する開発を進行いたしました。
- ③ SNSゲームの運営ノウハウを生かしたBtoB(企業間取引)向け受託開発・運営に関しては、引き続きストック型案件の運営中心に、堅調に推移しております。
- ④ その他新規事業につきましては、子会社であるCommSeed Korea Co., Ltd.(韓国)と連携し、日韓合同チームによるソーシャルカジノプロジェクトを進行中です。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末から64,392千円増加し、1,161,646千円(前事業年度末比5.9%増)となりました。

これは主に、現金及び預金119,666千円の増加と、流動資産その他49,511千円の減少によるものです。

② 負債

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末から30,129千円増加し、366,796千円(前事業年度末比8.9%増)となりました。

これは主に、未払法人税等8,177千円、契約負債42,796千円、流動負債その他20,707千円の増加と、買掛金25,607千円、長期借入金15,174千円の減少によるものです。

③ 純資産

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末から34,263千円増加し、794,849千円(前事業年度末比4.5%増)となりました。

これは、第7回新株予約権の権利行使により資本金1,452千円、資本準備金1,452千円の増加と、四半期純利益の計上により利益剰余金29,475千円が増加によるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期と比べ260,861千円増加し、595,202千円（前年同四半期比78.0%増）となりました。

各キャッシュ・フローの状況と主な要因は、次のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果獲得した資金は155,574千円（前年同四半期は152,070千円の使用）となりました。

これは主に、税引前四半期純利益36,367千円、減価償却費13,689千円、売上債権の減少13,279千円、前払費用の減少53,639千円、その他62,943千円の資金増加と、仕入債務の減少25,607千円の資金減少によるものです。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は20,737千円（前年同四半期は48,728千円の使用）となりました。

これは主に、無形固定資産の取得による支出21,737千円の資金減少によるものです。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は15,169千円（前年同四半期は182,194千円の獲得）となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出15,174千円の資金減少によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、主力事業であるソーシャルゲーム「グリパチ」に加え、ゲームパブリッシング事業や安定した収益が見込める受託事業を軸に収益基盤を維持してまいります。そのうえで、当社が中長期的な成長を目指すには、「グリパチ」に続くコアタイトルの育成と収益源の多様化が重要となるため、新規タイトルの育成、国内外ゲームタイトルのパブリッシング展開および新規事業領域への挑戦等、新たな事業開拓を引き続き継続し、事業拡大を目指してまいります。

2022年3月期の通期業績の予想についてですが、売上高につきましては既存事業が堅調に推移することを見込んでいる一方で、新規事業に関しての本格的な業績寄与は、翌期以降を見込んでおります。また、現在、新型コロナウイルス感染症の収束時期を予想することは困難ではあるものの、重要な影響を与える可能性は低いものと認識しております。

一方、利益面につきましては、主に先行投資費用となるソーシャルカジノ開発に関する費用が増加する見通しですが、既存事業の復調および徹底した原価の見直しを行い、回復を見込んでおります。

なお、当社を取り巻く事業環境は短期的な変化が激しいことに加え、当社業績は著作権を持つ取引先の状況や、パチンコ・パチスロ系スマートフォンアプリに関する実機の許認可の状況に左右される場合があり、当社の業績も短期的に大きく変動することも想定されるため、通期業績のみを開示しております。

以上により、2022年3月期の通期業績につきまして、売上高は1,800百万円（注）、営業利益25百万円（前年同期は営業損失159百万円）、経常利益23百万円（前年同期は経常損失169百万円）、当期純利益20百万円（前年同期は当期純損失414百万円）を見込んでおります。

（注）2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、業績予想値は当該会計基準等を適用した後の金額としており、対前年同期との比較は記載しておりません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	475,536	595,202
受取手形及び売掛金	272,825	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	258,546
仕掛品	1,858	2,347
原材料及び貯蔵品	1,137	1,117
その他	93,893	44,382
貸倒引当金	△9,566	△9,566
流動資産合計	835,685	892,030
固定資産		
有形固定資産	8,454	7,349
無形固定資産	37,189	46,341
投資その他の資産		
その他	254,504	254,504
貸倒引当金	△38,580	△38,580
投資その他の資産合計	215,924	215,924
固定資産合計	261,568	269,616
資産合計	1,097,253	1,161,646
負債の部		
流動負債		
買掛金	137,343	111,735
1年内返済予定の長期借入金	30,348	30,348
未払法人税等	5,723	13,900
契約負債	-	42,796
その他	64,831	85,539
流動負債合計	238,245	284,319
固定負債		
長期借入金	70,848	55,674
退職給付引当金	8,376	8,376
役員退職慰労引当金	19,197	18,427
固定負債合計	98,421	82,477
負債合計	336,667	366,796
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,134,917	1,136,369
資本剰余金	566,026	567,478
利益剰余金	△943,894	△914,418
自己株式	△53	△53
株主資本合計	756,995	789,375
新株予約権	3,590	5,473
純資産合計	760,586	794,849
負債純資産合計	1,097,253	1,161,646

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	671,611	965,823
売上原価	457,390	691,451
売上総利益	214,220	274,371
販売費及び一般管理費	347,723	236,472
営業利益又は営業損失(△)	△133,502	37,899
営業外収益		
受取利息	160	153
雑収入	81	—
その他	—	10
営業外収益合計	242	163
営業外費用		
支払利息	606	461
社債利息	241	—
社債発行費	2,631	—
支払手数料	3,644	2,176
営業外費用合計	7,123	2,637
経常利益又は経常損失(△)	△140,383	35,425
特別利益		
新株予約権戻入益	—	942
貸倒引当金戻入額	420	—
特別利益合計	420	942
特別損失		
減損損失	74,331	—
特別損失合計	74,331	—
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△214,295	36,367
法人税、住民税及び事業税	1,146	6,891
法人税等調整額	6,974	—
法人税等合計	8,120	6,891
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△222,416	29,475

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△214,295	36,367
減価償却費	15,785	13,689
減損損失	74,331	—
新株予約権戻入益	—	△942
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	9,146	—
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	—	△770
株式報酬費用	882	5,725
受取利息及び受取配当金	△161	△153
支払利息	848	461
社債発行費	2,631	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△35,724	13,279
棚卸資産の増減額 (△は増加)	1,398	△468
仕入債務の増減額 (△は減少)	23,245	△25,607
前払費用の増減額 (△は増加)	2,382	53,639
長期前払費用の増減額 (△は増加)	△43,554	—
その他	14,089	62,943
小計	△148,993	158,163
利息及び配当金の受取額	161	153
利息の支払額	△947	△452
法人税等の支払額	△2,291	△2,290
営業活動によるキャッシュ・フロー	△152,070	155,574
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,221	—
無形固定資産の取得による支出	△46,576	△21,737
貸付金の回収による収入	420	—
敷金の差入による支出	△350	—
その他の収入	—	1,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△48,728	△20,737
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△15,174	△15,174
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	4
新株予約権付社債の発行による収入	197,368	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	182,194	△15,169
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△18,604	119,666
現金及び現金同等物の期首残高	352,945	475,536
現金及び現金同等物の四半期末残高	334,341	595,202

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期累計期間において、第7回新株予約権が権利行使され、資本金及び資本準備金がそれぞれ1,452千円増加し、当第2四半期会計期間末において資本金が1,136,369千円、資本準備金が567,478千円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、当社の主要なサービスであるソーシャルゲームと従量制スマートフォンゲームアプリの収益に係る取引については、顧客との約束した財又はサービスは自ら提供する履行義務に該当することから、顧客から受け取る対価を純額により収益として認識していた当該対価について、本人として総額で収益を認識しております。

この結果、従前の会計処理と比較して、当第2四半期累計期間の売上高及び売上原価はそれぞれ208,723千円増加しておりますが、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益への影響はありません。

また、収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、第1四半期会計期間より、前事業年度の貸借対照表において「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は「受取手形、売掛金及び契約資産」に、「流動負債」に表示していた「前受金」は「契約負債」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」

(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これにより四半期財務諸表に与える影響額ははありません。